

〔台徳院殿御實紀附録〕寛永六年九月二十日、西丸山里にて口切の御茶ありて、大猷院殿家光

にも渡御ありて、おなじ廿二日、又諸大名を山里へめして御茶下さる、その折しも紀水の兩卿は、

御けしき伺のため西城へまうのぼられしが、山里へ成らせられし後なれば、まばし還御を待し

めらるゝに、大猷院殿また渡御ありければ、兩卿まづ見え奉らる、とかうして山里より青山大藏

少輔幸成御使して、過し二十日ならせられし時は、空打しぐれて、ふじの山さだかならざりしを、

いと名残多くおぼしめすに、けふはいとよく晴わたりたれば御覽あるべし、よて御鎌の間にて

御茶進らせらるべければ、兩卿をも伴ひて渡らせ玉へと仰ければ、則ち兩卿を伴ひて山里へ渡

御あり、露地數奇屋など御覽の後、鎌の間に入せ玉ふ、やがて御みづから茶を點じて進らせらる、

大猷院殿いたゝかせ玉ひし後、兩卿に賜はりをさむ、後の炭は大猷院殿あそばされ、事はて、富

士御覽あり、略中とかくして時刻うつり、黄昏に及びて大猷院殿還御ありければ、諸卿も恩を謝

してまかであれしとぞ、

〔槐記〕享保十一年四月二十一日、御茶、上田養安、拙、舟洋參集、雨天

御待合圓座、バカリ御手水鉢雨覆アリ、杉ノ長、本アミ、御園、ヒツリカシ、障子、御茶

簾ナシ、御床掛物日寛、葡萄、自畫、自賛、是前、カド、御茶、ニテ、拜見、ス、日、御棚、香合、赤繪、マシ、角平

揮ノ字アリ、肩ニ直印アリ、角ニ御釜、大口ノ下、示シキタナ、中、略、障子、前、雨、御茶、御

中立、待合煙草、盆、圓座、計、御園、障子、カハリ、中、腰、障子、紙、上、ハ、ミ、ナ、油、布、ニテ、御、ハ、リ、油

生ニ尺マハハリ、ホド、竹、内、眞ノ、黒、マ、リ、外、ツ、御、花、川、骨、其、下、段、ニ、御、水、指、葱、茶、碗

黒。御茶入、盛り、肩、カス、青色、ニテ、黄、糲、不、吟、ハ、來、袋、紹、鴨、純、子、瘦、カ、イ、キ、マ、ニ、御、茶、杓、編、島、大、御、茶、碗

〔茶道筌蹄〕茶會草書、茶、白、下、ハ、ス、マ、テ、立、テ、火、さ、し、て、御、茶、碗、一、人、一、盃

曉日七時時、露地入するなり、當時は比勢半なり、入、身、習、了、テ、火、さ、節、了、製、了、マ、も、二、火、さ、入